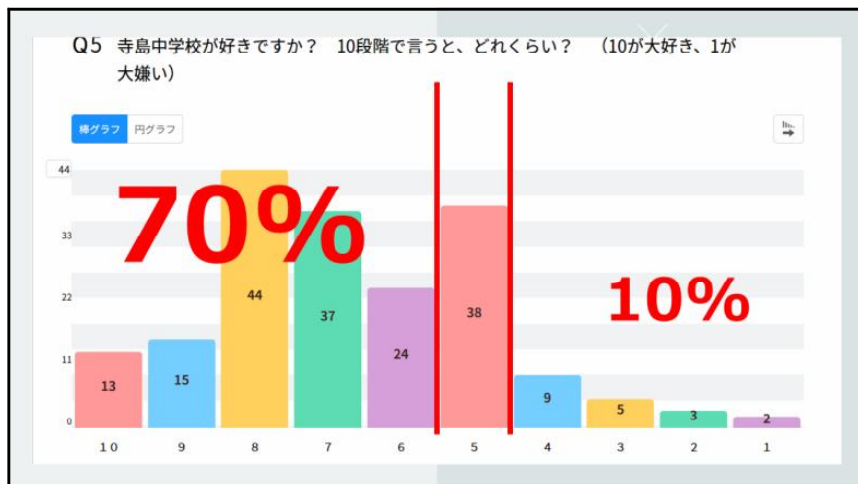


Be Proactive!

新年度開始時、2, 3年生意識調査「寺島中学校が好きですか？」



「生徒の声を聴く」という方針で、まずはじめに行ったのが、2, 3年生の生徒たちへの意識調査でした。質問は三つ、「寺中が好きか?」「寺中の良いところ・自慢できるところは?」「もっと良くするには?」というシンプルなものにしました。その結果が左のグラフの通りです。自分で好きかどうかを10点満点

で評価したとき、真ん中の5点を「どっちでもない」ということで除外して、6点より上を肯定的回答（「寺中が好き」）、4点より下を否定的回答（「寺中が好きじゃない」）と捉えることにすると、なんと70%の生徒が肯定的回答をし、「好きじゃない・嫌い」と答えた生徒は10%でした。これは、並外れた良い結果と言えます。もちろん、この10%の生徒たちを大切に、将来的には「好き」と言えるようになるよう努めてまいります。

二つ目の質問「寺中の良いところ、自慢できるところ」については、「あいさつ」という意見が圧倒的に多く寄せられました。続いて「(生徒の)仲が良い」「明るい」「元気」、そして「行事」「先生」「校庭」という結果でした。

三つ目の質問「もっと良くするには?」に対しては、予想外に積極的な意見が少ない印象を受けました。比較的多く寄せられたのが、学校の設備に関する意見でした。老朽化が進み、雨漏りがひどかったり吹奏楽部の楽器が古くて使えなくなっていたりするので何とかしてほしいというものです。また、それほど多くありませんでしたが、「校則」のこと、「行事を増やしたい」、「部活(の時間)を増やしてほしい」「給食を増やしてほしい」などが見られました。中には「女子のズボンを男子と同じものにしてほしい」「技術家庭の試験時間を延ばしてほしい」「再登校をなくしてほしい」「先生との交流の場を設けてほしい」「先生の言葉遣い(を気をつけてほしい)」「ワークなどの課題をテスト前に一気に出さないでほしい」「体育座りをやめてほしい」など切実な訴えもありました。「生徒の意見を聞いて、ちゃんと対応してほしい」と書いてくれた生徒がいましたが、一つずつ実現できるかどうかしっかり考えていきます。設備に関するものについては、教育委員会・区役所に要望して改善を求めています。校舎の改築が決定しましたが、残念ながら生徒たちの在籍中には間に合いません。ただし、即変更できる点については、どんどん検討していきます。集会時の「体育座り」は、初めての朝礼時に廃止しました。校則のこと（標準服も含む）については、生徒たちと話し合い、できるだけみんなが過ごしやすい学校になるように改善を図りたいと思います。

「主体的」とは？

私は、令和8年度を迎えた寺島中学校の校訓を"Be proactive!"（「主体的であれ」）と決めました。それは、今の寺中生にとって、最も必要なことだと考えています。

着任してひと月の間、生徒たちの様子を観察してきました。今の寺中生は、礼儀正しく、人の話をよく聞くという基本的な態度がしっかり身に付いている、素晴らしい生徒たちです。これは、できそ

うでなかなかできないことで、これまで田中茂和・前校長のもと頑張ってきた、生徒と教職員の努力のたまものです。言われたことをきちんとできる。さらに、言われなくてもきちんとできる＝「自主的」な生徒に育てています。私は、そんな可能性を秘めた生徒たちに、さらに一段階上のステージへ上がってほしいと思っています。それが「主体的」な生徒です。

「主体的である」とは、自分の言葉や行動を自分の意志で「選択・決定」し、さらにその言動に自ら「責任」をもつ、という態度のことです。昨今、「主体性」という言葉は頻繁に耳にするようになりましたが、この概念－「主体性」という言葉自体も－は、日本では新しい考え方です。



戦後、1970年代、日本は高度経済成長期にあり、どんどん豊かな国に発展していきました。その時は、選ばれた少数のリーダーがすべてを決定し、指示を出し、人はそれに従ってればよかったのです。ちょうど、左図のように、先（進行方向）を見ているのは一人だけで、目的地に到達するためには、後の人は、ただ言われたとおりに力を発揮すればよかったのです。こういう時代には、余計なことを考えずに、ただ言われたとおりに動く人材が求められ、教育も「みんな一緒」「平均的に良く」なることが重要な課題でした。

しかし、現代は、右図のように予測困難な課題が次々と迫ってくる荒波の中を進むような時代です。このような場合は、目標を共有したそれぞれの個が、自ら状況を判断し、何をするかを決定して動くことや、仲間と協働することが求められています。一律の、似たような能力ではなく、多様な個が自分の良さを持ち寄って、協力して課題を解決していく必要があります。このような国民の育成のために、国は「主体的・対話的で深い学び」や「個別最適な学び・協働的な学び」というキーワードで、教育の方向性を示しています。



寺島中学校では、墨田区教育委員会令和8、9年度研究協力校の指定を受け、これからの時代に求められる「非認知能力の育成」を、生徒の主体性を引き出す活動を通して実現していくことにいたしました。（「非認知能力の育成」については、次号でご説明します。）



4月27日(月曜日)令和8年度前期委員認証式にて